

令和6年度 鶴見地区 幼保小教育交流事業活動報告

～持続可能な幼保小交流を目指して～



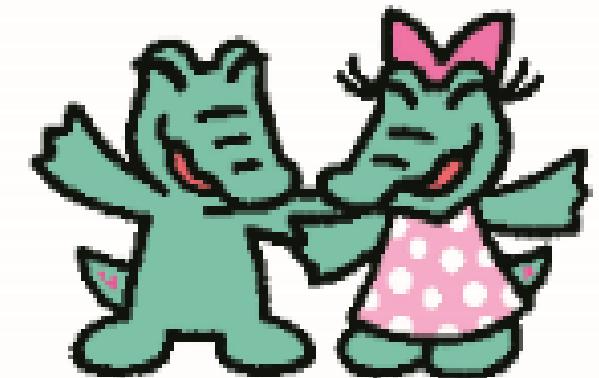
鶴見区マスコットキャラクター
「ワッくん」

令和6年度 鶴見地区の交流事業

- ・鶴見区内の幼保園、小学校で19ブロックを設定して交流を実施してきたが、コロナ禍後においてもなかなか交流が戻らないため、交流座談会を計画。
- ・8小学校を会場に、教職員・保育士間の交流を図り、お互いに顔の見える関係を構築し、有機的に繋がれることをねらいとしている。

交流事業対象の園・校数

こども園	3園
幼稚園	15園
保育所	86園
小学校	23校（「聖ヨゼフ学園小」を含む）
特別支援学校	0校



「ワッくん」と友達「ワッコちゃん」

年間活動報告

5月,6月,7月,9月 鶴見地区実行委員会を開催

9月～11月 幼保小教育交流座談会（下記8会場）

馬場小, 下野谷小, 新鶴見小, 東台小, 鶴見小, 生麦小, 末吉小, 下末吉小
子ども園:1, 幼稚園:10, 保育園:72, 小学校:23 職員計383名が参加

11月 健やか子育て講演会（会場＝鶴見公会堂）

ゲスト：ゆうゆうの森幼稚園・渡辺英則先生, 東海大学・寶來生志子先生

演題：「これからの中社会に求められる子どもの育ちや学び

～考えないスイッチを入れない保育・教育とは～」

12月,2月 鶴見地区実行委員会を開催

鶴見地区実行委員会

- ・ 小学校2, 幼稚園6, 保育園2(公立1, 私立1)の8名で構成
実行委員会は5月, 6月, 7月, 9月, 12月, 2月に開催。

【内容】

- ・令和5年度活動の振り返り, 令和6年度の方針策定
- ・健やか子育て講演会の開催計画
- ・幼保小間の交流計画
- ・ブロックの活動費の使用用途検討

令和6年度は、前年度末に旭小学校が独自開催した幼保小交流座談会を参考に、鶴見区内教育機関で教職員同士の交流が活性化するように計画立案した。

活動報告① 幼保小交流座談会

区内市立小学校22校を8ブロックで編成 8回の座談会を開催

ブロック	参加小学校				開催日時
A	鶴見小(会場)	潮田小	豊岡小	平安小	10月30日(水) 15:30-16:45
B	末吉小(会場)	駒岡小	上末吉小		11月22日(金) 15:30-16:45
C	下末吉小(会場)	市場小			11月21日(木) 15:30-16:45
D	新鶴見小(会場)	矢向小			10月22日(火) 15:30-16:45
E	生麦小(会場)	岸谷小			10月31日(木) 15:30-16:45
F	東台小(会場)	寺尾小	上寺尾小		10月30日(水) 15:30-16:45
G	下野谷小(会場)	汐入小	入船小		10月17日(木) 15:30-16:45
H	馬場小(会場)	獅子ヶ谷小	旭小	ヨゼフ小	9月17日(火) 15:30-16:45

- ねらい
- ・幼児教育施設ではぐくまれてきた資質・能力を、小学校教育を通じてさらに伸長していくために、両者の教育についての理解を深める
 - ・両者の立場の違いを越えて幼保小で連携・協働できるように、気軽に声を掛け合える関係性をつくる
 - ・両者による「架け橋期のカリキュラム」作成における子ども観を見出す

参加対象 区内小学校、近隣幼稚園・保育園・認定こども園ほかの教職員
※ブロックごとの参加小学校に卒園児等が通学していなくてもご参加いただけます

令和6年9月17日 馬場小学校にて、獅子ヶ谷小、旭小、ヨゼフ小 ブロック座談会開催



前年度末開催の独自座談会を経験
している職員が多数
→ 先駆けとして「モデル」開催

主たるねらいは、
教職員の「顔の見える関係づくり」

アイスブレイク後に、ドキュメンテーションや園だより、小学校・学級だより等を通じて教育内容等を共通理解

幼保園19園、小学校7校の67名が参加



以降、7会場で同様な形態の座談会を開催

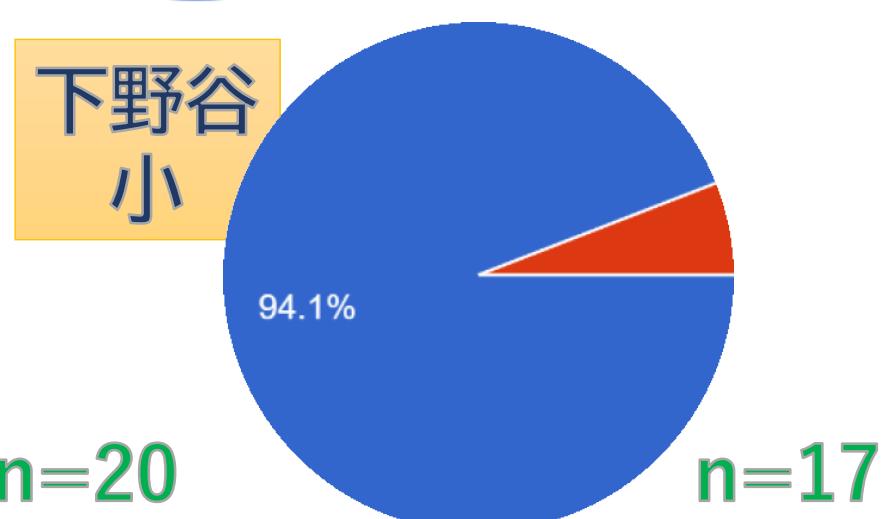
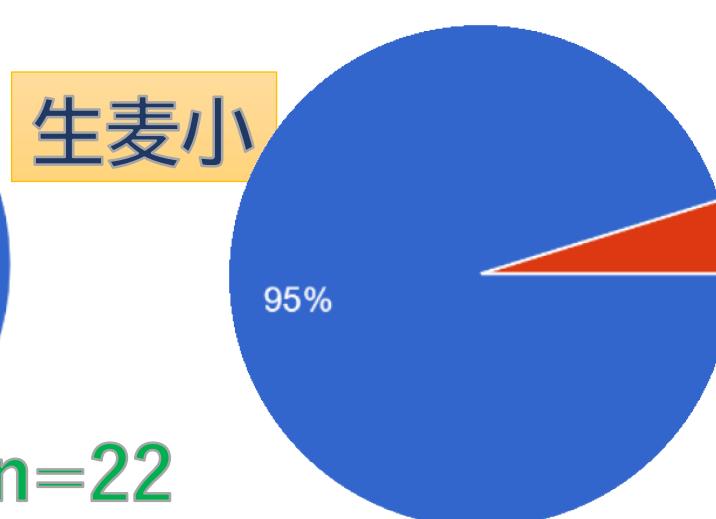
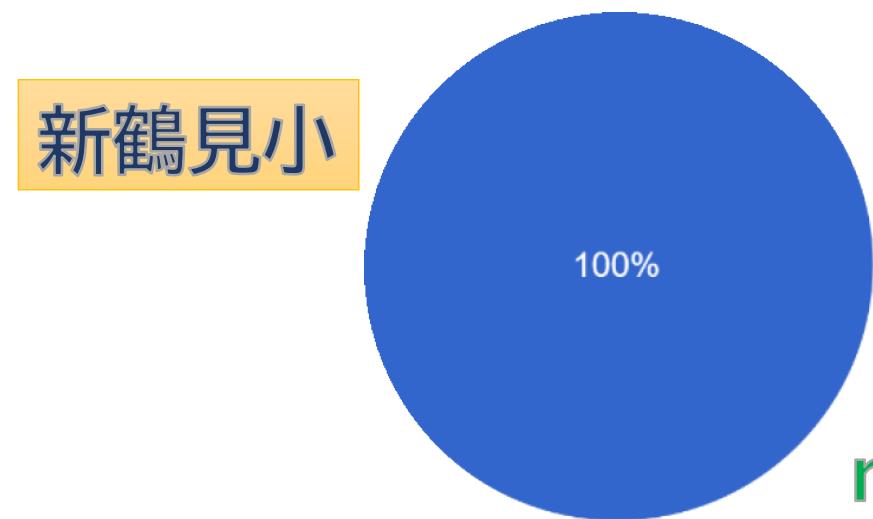
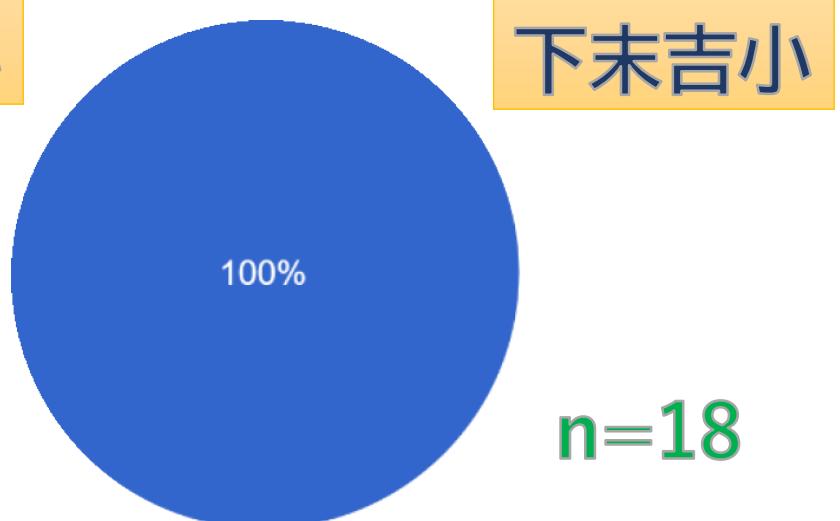
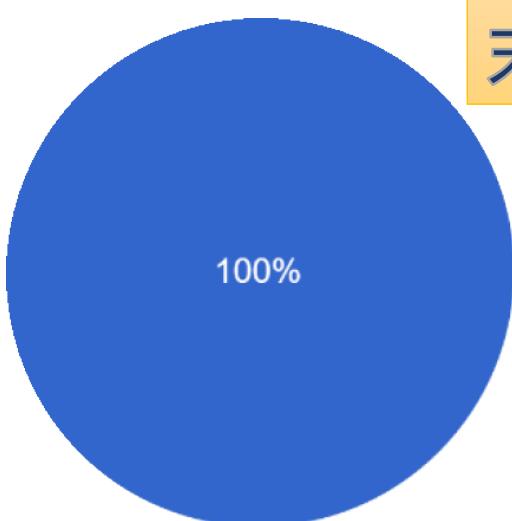
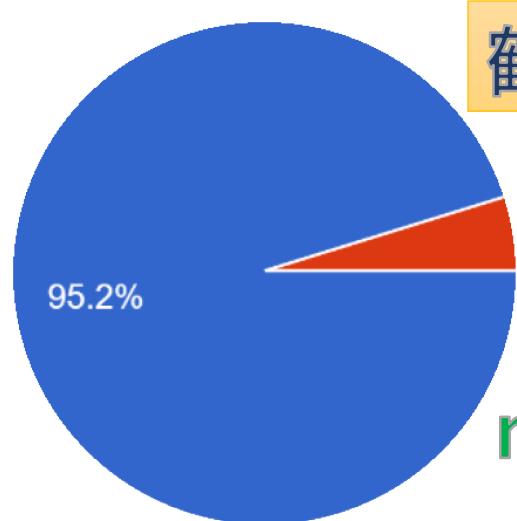


参加校・園数 および 人数 (全8ブロックでの総計)

	保育園	幼稚園	小学校	関係機関	合計
園・学校	73	11	23	1	108 (施設)
保育士・教職員	111	37	125	2	275 (人)

ブロック別アンケートから

座談会は有意義なものでしたか？



■ とても有意義だった

■ どちらとも言えない

参加者の感想（抜粋）

【指導のあり方】

- 小学校への育ちのつながりや、子どもたちの姿を共感することが多かった。（保育園）
- 小学校の先生も目指しているところは似ていると改めて感じた。（幼稚園）
- 園での学びを活かして、小学校でもっと子どもたちを成長させたいと感じた。（小学校）
- 「子どもたちはもっとできる」ということを知ることができ、よかったです。（小学校）
- 「小学生だから全部教えなければ」ではなく、できることを積み上げていけるように（もっている力を）引き出してあげたい。（小学校）

【今後の交流機会】

- 普段の保育や授業内で関わられる機会を互いに持てると良いと思う。（保育園）
- 新年度開始前にこのような機会があれば1年間の過ごしがより定まるのではないか。（幼稚園）
- 保育園での取組や考え方を聞いて、とても温かい気持ちになった。（小学校）

活動報告② 健やか子育て講演会

令和6年度 鶴見区健やか子育て講演会



これからの社会に求められる
子どもの育ちや学び
考えないスイッチを入れない保育・教育とは



講 師



寶來 生志子 (ほうらいきしこ)

横浜市の公立小学校勤務の後、同市こども青少年局担当課長として幼保小連携や「スタートカリキュラム」推進を担う。その後、横浜市立池上小学校、恩田小学校校長として、「スタートカリキュラムのあり方」を全国に発信。幼児教育と小学校教育の接続を重視した教育（架け橋プログラム）にも深く携わる。令和5年～東海大学児童教育学部准教授。NHK E テレ「おばけの学校たんけんだん」「すたあと」の制作にも協力。

日 時

令和6年 11月5日 (火)
15:00～17:00 (開場 14:30)

講 師



渡邊 英則 (わたなべ ひでのり)

早稲田大学理工学部機械工業科を卒業後、西アフリカガーナで理数科教師として青年協力隊に参加。帰国後、青山学院大学大学院博士前期課程を修了。現在は学校法人渡辺学園北幼稚園理事長兼園長、認定こども園ゆうゆうのもり幼稚園園長の他、関東学院大学、慶應義塾大学、田園調布学園大学大学院の非常勤講師、日本保育学会評議員、中央教育審議会委員等を務める。

場 所

鶴見公会堂ホール
鶴見区豊岡町2-1 フーガⅠビル 西友6F
(045)583-1353



円滑な幼保小接続、「遊びは学び」の理念のもと、実践を推進する寶來先生、渡邊先生をお招きし、保護者、保育士、教師が集い、学ぶ貴重な機会となりました。

旭小学校ブロック活動報告

旭小学校 寺尾幼稚園 北寺尾第二むつみ保育園 北寺尾むつみ保育園 馬場保育園



児童・園児が新学期を迎える直前の4月4日、新年度の年長組、1年生担任と園長・校長が集い、交流の計画を立てました。

それぞれが「実現したいこと」を話し合うことができ、新学期第1週から幼保小の交流が実現しました。

【写真下】 幼稚園から届いたビデオレターに1年生は大喜びでした。

【写真右】 小学校側が提案した「保育士に1年生の教室に来てほしい」が実現。絵本を読んだりゲームをしたりしていただきました。



幼稚園から届いたビデオレター



旭小学校ブロック活動報告

旭小学校 寺尾幼稚園 北寺尾第二むつみ保育園 北寺尾むつみ保育園 馬場保育園

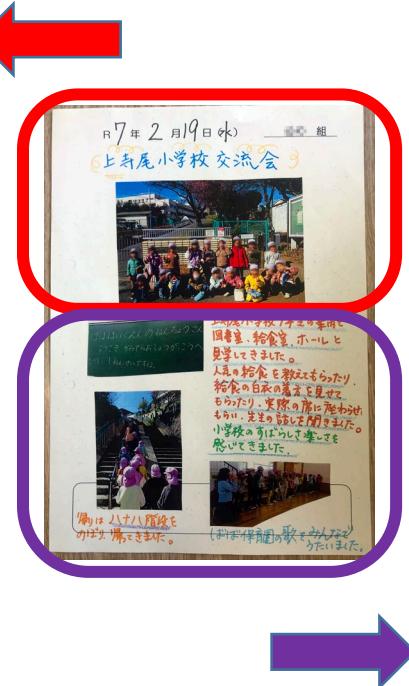


夏休みを利用して、小学校と近隣園とで旭小学校を会場として合同研修会を開きました。4月の打合せには参加できなかった幼保小の職員にとっては初めて顔を合わせる機会でしたが、アイスブレイクから始めた研修によってお互いの名前を覚え、すっかり打ち解け、それぞれの取組を紹介し合いました。

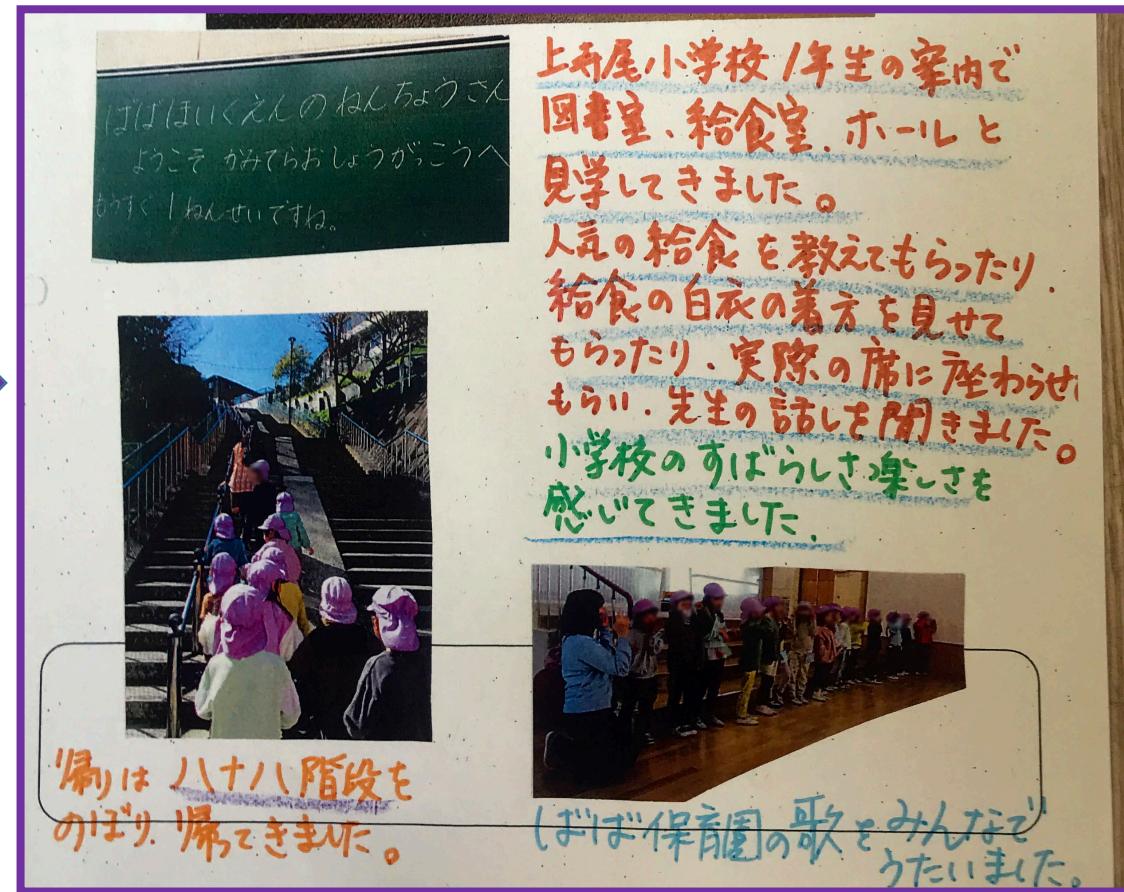
こういった機会を複数設定することが大切と感じました。

上寺尾小学校ブロック活動報告

上寺尾小学校 馬場保育園



馬場保育園の
ドキュメンテーションより



上寺尾小学校に馬場保育園の園児が出向き、
1年生と交流しました。

これから入学する小学校で、1年先に入学している“せんぱいたち”とのかかわりを通して、入学への期待を膨らませることができました。

成果と課題 来年度に向けて

【成 果】

- 8ブロックで実施した座談会はたいへん好評で、会場によっては参加者に差異があったものの、幼保小合計108施設、275名の職員が参加できたことで、コロナ禍で止まりかけていた交流において、回復の傾向を得ることができた。
- 「健やか子育て講演会」では、寶來先生、渡邊先生をお呼びして、最新の動向に加えて指導者が子育てに向かう姿勢のあり方を学ぶことができた。

【課 題】

- 今年度は、座談会を鶴見区内全校で共通して行って好評だったが、「健やか子育て講演会」には保護者の参加が少なく限定的だった。お子さんの送迎等で参加しにくいことが想定される。開催の時期や時間帯を含めて再考する必要がある。

【次年度の方向性】

- 「健やか子育て講演会」と保育参観、「授業参観後に座談会」のように複数の形態を組み合わせて、幼保小職員、保護者が参加しやすい形態を模索する。

この報告書を、各学校や園のホームページ等に掲載することをお勧めします。

園の保護者(特に年長児の保護者)は、お子さんが進学する学校のHPをよくご覧になっています。そこに、幼保小連携の取組があると保護者の安心につながる等の効果が期待できます。

他地区の取組もご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/hoiku-yoji/shitukoujou/renkei/kyouikukouryujigyou.html>